

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和5年2月16日

1. 初期支援 (はじめのかかわり)

メンバー 永和、松比良、宇都宮、井上、田所、曾和、森本、稲葉、大場、武智、花崎

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	8	3			

前回の改善計画	利用者が真に必要としているニーズを見抜き、細かい気遣いができるような訪問職員を育成し、訪問サービスを充実させる。
前回の改善計画に対する取組み結果	主に訪問を担当する職員を置くことで、充実したサービスが提供できている。買い物に行きたい、衣替えしたいなどのニーズにも柔軟に対応し、満足してもらえている。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか?	3	8			11
②	サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか?	7	4			11
③	本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いでの声掛けや気遣いできていますか?	5	6			11
④	本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか?	6	5			11

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
<p>新入職員にはまず利用者一人一人の生活歴や病歴・疾患・性格・ケアプランの内容を熟知してもらい、本人のことを知って関係性作りに生かすようにしている。</p> <p>ケアプランについては作成前に添付メールで遠方の家族に見ていただき、修正している。家族とは電話・メール等で密にやり取りし、意見を伺って不安の解消に努めている。家族のいない方は親族に電話や手紙で報告している。贈り物があった場合にはお礼の電話をかける支援をしている。利用者によりニーズが違うのでその人の生活に合わせた支援を提供している。</p>	

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
<p>今年度は新規利用がなかったため、利用開始にあたる初期支援の機会がなかった。</p>	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
<p>新入職員があった場合に、介護支援専門員から利用者一人ひとりにおけるケアプランを説明する。</p> <p>新規利用があった場合には、介護支援専門員を中心に、利用開始前の情報やニーズの把握に努めたケアを展開していく。</p>	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和5年2月16日

2. 「～したい」の実現 (自己実現の尊重)

メンバー 永和、松比良、宇都宮、井上、田所、曾和、森本、稲葉、大場、武智、花崎

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	6	5			

前回の改善計画
 外出・外食の機会をできるだけ多く作る。

前回の改善計画に対する取組み結果
 安全に配慮しながらコロナ禍における利用者の外出について心を砕いて取り組めた。外に出ることによる利用者の気分転換、笑顔は計り知れない。店舗での外食はまだ実施することができなかったが、中庭でのランチやバーベキュー、人のいない公園でお弁当を食べることができた。外で食べることにより、普段あまり食べない方も食が進み利用者利用同士の交流が図れるなど、いくつもの副産物が得られた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	「本人の目標 (ゴール)」がわかっていますか?	4	4	3		
②	本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか?	5	6			
③	本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか?	4	7			
④	実践した (かかわった) 内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かしていますか?	6	5			

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

生活の主体者は本人である、という鉄則にのっとり、日常生活全ての決定事項において本人の希望を反映している。朝食はパンか米食か、飲み物は何がいいか、ミルクは入れるかなど都度聞きながら提供している。「ご飯をもっと多くして」「お粥がいい」などの要望に対応し、食事以外にも要求があれば間食を出したり、外に行きたいと言われたら散歩やドライブに行ったりしている。行事の時には自由にお酒を飲み、食べたいものを食べている。「買い物に行きたい」との声で道の駅や近くの商店に出かけている。夏に「ウナギが食べたい」という声にこたえ、七輪で鰻のかば焼きをして喜ばれた。猫好きの人が猫を飼ったり、草引きがしたい人には見守りつつ自由に外に出てもらったりしている。「鬼北の家に帰りたい」という要求には、1か月に1度は職員が同行して達成している。

できていない点 200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること

鬼北の家に帰りたい、という要求に対する即時的な対応。時間・費用がかかること、「家に帰って (以前のよう) 暮らす」という根本的な解決にはなっていないため本人の願いに添える形を模索している。

次回までの具体的な改善計画 (200字以内)

家族と話し、帰ることができないのか、その場合に弊害となっているものは何かを考える。一番良い方法を本人・家族・職員・友人等で探す。
 外食のプランを取り入れる。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和5年2月16日

3. 日常生活の支援

メンバー 永和、松比良、宇都宮、井上、田所、曾和、森本、稲葉、大場、武智、花崎

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	8	3			

前回の改善計画	ミニマムアセスメントシートを職員が読めるように設置し、職員全員が自宅や家族の状況・詳しい経緯などを把握できるようにする。
前回の改善計画に対する取組み結果	ミニマムアセスメントシートを職員が読めるように設置し、全員が利用者についての詳しい情報を把握できた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が10個以上把握できていますか?	1	10			
②	本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか?	11				
③	ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか?	6	5			
④	本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか?	8	3			
⑤	共有された本人の気持ちや体調の変化に即時的に支援できていますか?	10	1			

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
今年度、事業所で看取りを行った。皆さんが声をかけたり水分を口に持って行ったりし、共に過ごし毎日見守る中で、穏やかな最期を迎えられた。一人一人がお別れの挨拶をし、並んで歌をうたいながら出棺を見送った。職員が思い出を綴った手紙を書き、また写真や動画をDVDにしてプレゼントした。ご家族から「吾も紅で本当に良かった、皆さんに温かく見送ってもらい、母は生ききったと思う。悔いのない晴れ晴れとした顔で、感謝している」と言ってくれた。桜の時期には花見週間を作り毎日色々な所に出かけ、季節に応じて牡丹(浄瑠璃寺)・藤(庚申庵)紫陽花(総合公園)ひまわり(ひよこたん池)ハス(考古館)彼岸花(窪野)菊花展、秋桜(見奈良・浅海)紅葉(久万ふるさと村)などに行った。梅ジュース作りでは皆さんに手伝ってもらい今年は5キロの梅を漬けた。正月、節分、ひな祭り、端午の節句、夏祭り、敬老会、芋炊き、運動会、餅つきなど季節の行事も行えている。	

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
日常のケアに生かすためのミニマムアセスメントシートの定期的な見直し、付け加え。重度利用者の想いを形にすることになかなか取り組めない。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
担当職員を中心に、本人や家族に詳しい聞き取りを行い、ミニマムアセスメントシートをより充実させる。特に重度利用者の方は家族の想いや意見を参考にしてケアを行う。	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和5年2月16日

4. 地域での暮らしの支援

メンバー 永和、松比良、宇都宮、井上、田所、曾和、森本、稲葉、大場、武智、花崎

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?			11		

前回の改善計画	感染状況を見て運営推進会議を開催し、地域に事業所内部を知ってもらう。
前回の改善計画に対する取組み結果	感染状況の悪化により、予定していた運営推進会議が全て中止となっしまい、地域住民との交流ができなかった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人のこれまでの生活スタイル・人間関係等を理解していますか?	4	7			
②	本人と、家族・介護者や地域との関係が切れないように支援していますか?	5	6			
③	事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか?	5	6			
④	本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか?	4	7			

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
<p>中庭でのバーベキューに本部のグループホームの方も来られ、逆に七夕祭りにはこちらから伺って交流できた。夏祭りには、ボランティアで他事業所職員や家族が参加している。天気の良い日は散歩や外気浴し、外に出ることを心掛けている。秋季大運動会で近くの公園まで皆で歩き、色々な競技で大いに盛り上がった。近隣のグループホームにも声をかけ1名参加した。また、郷土の画家家族より「父の絵を寄贈したい」という申し出があり、せっかくなので多くの方に見ていただきたいと考え、地域向けの展覧会を開催した。後援会が素晴らしいパンフレットの作成、喫茶・受付を協力してくれ、地域向けの展覧会となった。吾も紅の職員が中心となって「ともの家バンド」を結成、展覧会コンサートで盛り上げてくれた。(のちに正式なクラブ活動となった) 吾も紅の利用者は全員出かけ、交流を楽しまれていた。PCR検査を受けることを前提とし、家族との面会もできた。近隣の商店に買い物に行き交流できている。湯築城のボランティアをしていた方が、湯築城に行き知り合いに出会い喜ばれていた。</p>	

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
運営推進会議による地域住民との交流	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
運営推進会議を開催し、地域との交流を図る。	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和5年2月16日

5. 多機能性ある柔軟な支援

メンバー 永和、松比良、宇都宮、井上、田所、曾和、森本、稲葉、大場、武智、花崎

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	7	4			

前回の改善計画	家族に相談しながら、無理せず手探りで少しずつ援助の手を広げていく。認知症は恥ずかしいことではなく、老化の一種であることを知ってもらい、安心して頼ってもらえるような信頼関係を築く。
前回の改善計画に対する取組み結果	家族には都度個別に話をし、認知症理解への啓蒙を行った。初めは対応に戸惑っていた家族も、今は受け入れてくださり、本人が安心した生活を取り戻せるようになった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか?	6	5			
②	ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか?	11				
③	日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができますか?	10	1			
④	その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか?	11				

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
<p>利用者Bさんの姉から招待を受け、利用者9名と職員3名がBさん宅のローズガーデンを散策し、お家の中でアフタヌーンティーを呼ばれた。皆さんかしこまって「お客様」の顔になり、Bさんはホステス役を務められて、良い交流が持てたと思う。</p> <p>元職員が松山劇場で主役を務めるということで知っている人で応援に行った。2時間半の観劇であったが皆さん大満足しておられた。</p> <p>また徘徊するかたの失踪事故があったときには近所の人に尋ねて行き先を教えてもらい、本部の職員に見てもらった。落ち着かない時には家族や友人に連れ出してもらったり、電話をかけたたりして、本人を多くの人で支えることにしている。</p> <p>コロナに感染し、状態が悪化した利用者は宿泊利用し回復して家に帰ることができた。また自宅で骨折した方も現在ショート利用し元気になっている。自宅で過ごせる環境を整え帰る予定である。</p>	

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
<p>利用者同士による認知症への不理解・不寛容がある。職員が間に入ってうまく解決できていない場合が見られる。</p>	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
<p>今後も利用者・職員・家族・地域に向けた認知症理解のための啓蒙活動を継続する。</p>	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和5年2月16日

6. 連携・協働

メンバー 永和、松比良、宇都宮、井上、田所、曾和、森本、稲葉、大場、武智、花崎

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	前回の課題について取り組みましたか？			11		

前回の改善計画
自治体や包括支援センターの行っているオンライン会議等に参加する。

前回の改善計画に対する取組み結果
申し込みしようとしていたが、コロナ感染状況が悪化し、対応に追われて結局参加することができなかった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	その他のサービス機関（医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所）との会議を行っていますか？	5	6			
②	自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか？			10	1	
③	地域の各種機関・団体（自治会、町内会、婦人会、消防団等）の活動やイベントに参加していますか？				11	
④	登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか？	4	7			

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
利用者家族の推薦・地域の医療機関から依頼があり、JICAのブラジル人研修生を受け入れ交流会を開いた。「見学だけの施設が多い中、皆さんと交流できてとても感激した」と言ってくれた。訪問看護・福祉用具専門相談員とは日常的にやり取りし、利用者の状態把握に努めている。餅を配ったり、AEDの設備があることを周知し、近所の方からも松ぼっくりや焚き付け、薪をいただいたりした。不登校の子どもが学校にいけるようになるまでボランティアをしたり、地域に住む利用者の親戚が訪れたりしている。その際に足が悪いため家まで送って行ってあげるなどのサービスを行った。

できていない点 200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
コロナ禍であり、自治体や地域の各種機関と交流できなかった。

次回までの具体的な改善計画 (200字以内)
自治体や包括支援センターの行っている会議、地域のイベント等に参加する。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和5年2月16日

7. 運営

メンバー 永和、松比良、宇都宮、井上、田所、曾和、森本、稲葉、大場、武智、花崎

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	6	5			

前回の改善計画
看護師・管理者を中心に個別の緊急時対応（感染症・苦情・容態急変）のシミュレーションを行い、いざという時にすぐに動けるようにする。
前回の改善計画に対する取組み結果
管理者による感染症発生時のシミュレーションを行い、職員が家族感染した時も適切に対応することで利用者への感染を出さずに済んだ。また、災害（大雪）による緊急時対応もスムーズに行えた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	事業所のあり方について、職員として意見を言うことができますか?	4	7			
②	利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか?	4	7			
③	地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか?	7	4			
④	地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取り組みを行っていますか?	3	5	3		

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
	毎月のミーティングで、先月の実践を振り返り、各自反省を提出している。毎月これを行う、という明確な目標があり、職員全員が積極的にミーティングに参加・発言している。職員は活発に行事を提案・実行し、業務改善の意見を提示し、都度取り上げて協働できている。音楽好きな職員が定期的に演奏会を開くなど、職員同士のチームワークも円滑である。 地域住民から要介護者家族の相談があり、利用にはつながらなかったが親切に伺いアドバイスできた。近所の人に頼まれて利用者が草引きをしたり、芋の根切りを手伝ったりした。 利用者・家族とは適宜意見を伺い、コミュニケーションを密にとっているため苦情となる前に解決できている。

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
	ゴミを管理している近所の方から、誰かわからないが尿取りパッドをそのまま突っ込んで困っていると、相談があった。地域の困りごとなので積極的に介入し解決していきたい。

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
	ごみの清掃を手伝い、またゴミの出し方がわからない方を突き止めてお手伝いするなど、地域のために活動する。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和5年2月16日

8. 質を向上するための取組み

メンバー 永和、松比良、宇都宮、井上、田所、曾和、森本、稲葉、大場、武智、花崎

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	前回の課題について取り組みましたか？	5	6			

前回の改善計画	
プランを見直し・訂正し、科学的介護の実践を継続する。	
前回の改善計画に対する取組み結果	
各職員がプランを立て、科学的介護の実践を継続できていた。	

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	研修（職場内・職場外）を実施・参加していますか	3	8			
②	資格取得やスキルアップのための研修に参加できていますか			5	6	
③	地域連絡会に参加していますか				11	
④	リスクマネジメントに取り組んでいますか	9	2			

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
運動・食事（栄養）・水分の3つについて具体的に目標を立てて取り組みを継続できている。結果として、1年を通してほとんど全員の体重が増え、BMI値も向上している。またショートステイ中に脱水状態の改善と運動の機会が増えたことで以前より元気になって家族に喜ばれた。足が弱っている人も歩行練習を続けることで下肢筋力低下が防げており、要介護5の人も全員立位が取れている。利用者についての気づきは「ヒヤリハット」を活用し、即時対策を練ることでリスク回避できており、大きな事故につながっていない。今年度、松山市への報告事故はゼロであった。	

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
職員の入れ替わりが激しく、継続した研修・指導が行えなかった。ハラスメントにより退職した職員が出てしまった。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
ハラスメントを含むリスクマネジメントについて、マニュアルをもとに全職員に周知徹底する。スキルアップのための研修を行う。	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和5年2月16日

9. 人権・プライバシー

メンバー 永和、松比良、宇都宮、井上、田所、曾和、森本、稲葉、大場、武智、花崎

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	5	6			

前回の改善計画	なぜそうするのか、ということ話し合い、行動原理を理解して利用者への対応を統一する。
前回の改善計画に対する取組み結果	職員会議内で研修を行い、利用者の行動原理・対応を取り上げた。対応が難しい方には紐解きシートの活用を図った。緊急時には都度全体メールで対応を指示している。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	身体拘束をしていない	11				
②	虐待は行われていない	11				
③	プライバシーが守られている	6	5			
④	必要な方に成年後見制度を活用している	9	2			
⑤	適正な個人情報の管理ができている	7	4			

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
利用者は全員、自らの意思で動き、安全かつ満足に生活できている。「意思を妨げない」ことが一番の安全に繋がると理解し、安全な歩行や移動ができるように利用者の身体機能の向上に努めている。どの方にも丁寧かつ親切な態度と言葉遣いで接し、その方の尊厳を守っている。扉や窓に鍵をかけないことはもちろん、スピーチロックやドラッグロックを含むいかなる虐待も行われておらず、どうしても気持ちがおさまらず出て行ってしまう人には付き添って歩くことで解決している。	

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
コロナ禍による人員不足などで、ゆとりがなくなると言葉遣いの乱れや利用者に対する陰口が出るがあった。自分に余裕がないと寄り添えていないと感じる。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
職員のアンガーマネジメントに務める。業務改善によりゆとりを作る。利用者に対する言葉遣いや心遣いについて全員が共感できるように指導する。	

外部評価 地域かかわりシート②（結果まとめ様式）

A. 事業所自己評価の確認

No.	項目	はい	いいえ	わからない
1	少なくとも常勤のスタッフが全員で事業所自己評価に取り組んでいることが確認できましたか？	6		
2	事業所自己評価を作成する際、事業所の常勤スタッフ全員の意見が反映されていることが確認できましたか？ ※ただし、ミーティングの場面では常勤職員の2/3以上の参加が望ましい	6		
3	前回の改善計画に対して、スタッフ全員で具体的な取組みが行われていましたか？	6		
4	今回の改善の必要な点が明らかになり、その改善計画が具体的に立てられていますか？	6		

【上記4つのチェック項目に関する意見】

※結果ではなく、事業所自己評価に取り組んだ経過（姿勢）に対する意見

- ・取組み姿勢はいいと思う。

【前回の改善計画に対して意見】

※前回の改善計画に対しての取組み結果に対する意見

- ・「できている点」と「できていない点」が整理されていて、課題分析がよくできていると感じた。

【今回の9つのテーマごとに記入された改善計画に対する意見】

※今回の改善計画が具体的かつ達成可能な計画になっているかについての意見

- ・コロナ対応等により人員不足が生じたり、ハラスメントにより退職した職員がいるとのことだったので、改善計画に沿って少しでもゆとりある運営ができるよう努めてもらいたい。

【「自己評価」をテーマにした自由意見】

- ・事業所自己評価については、今後もスタッフに対して実施の目的や趣旨等、意識付をしたらうえで行うこと。

【改善計画】

次年度の重点目標を以下のように設定する。

- ①強い高齢者を目指す…「弱者」とみられがちな高齢者だが、生活の主体者としての権利を尊重し、思いのままに生きられるよう支援する。足腰を鍛え、十分な水分・栄養を摂り強い身体を作る。医療依存を減らして健康寿命を延ばす。
- ②実力ある職員を目指す…毎月の会議で実践結果を報告、評価する。研修を勤務として組み込む。認知症ケアの徹底により専門性豊かな職員を育成する。
- ③誰もが幸せな高齢者社会の実現…本人、職員、関係者、地域の全てに関わり、包括的なケアを計画・実践する。

B. 事業所のしつらえ・環境

No.	項目	はい	いいえ	わからない
0	前回の改善計画について取組んでいましたか？	4		2
1	家族や地域の方が、事業所に入りやすい工夫がなされていますか？	4		2
2	事業所は、居心地がいい空間になっていますか？	5		1
3	事業所内・外に、不快な音や臭い等はないですか？	5		1
4	日中、事業所の門や玄関にカギはかかっていますか？	5		1

【上記5つのチェック項目に関する意見】

事業所内がやや暗いと感じることがある（照明）。

【前回の改善計画】

常にだれにとっても居心地良い空間であることを目指し、優しさと受容を基本的姿勢として、利用者本人が自己実現できるように努める。「水分・排泄」「運動・レク」「栄養・環境」「救命・防災」の4つの委員会を組織し、3か月毎に研究成果を発表・ケアの改善を図る。

【「事業所のしつらえ・環境」をテーマにした自由意見】

- ・利用者の行動制限をせず、開放的にすればその分職員の負担が増えるようにも思えるが、それでやれるのであれば、理想的と考える。
- ・声掛けするとすぐに職員が出て来てくれて、丁寧に対応をしてくれるので事業所に入りやすい。
- ・今後とも、清潔感のある施設環境の整備に努めてもらいたい。

【今回の改善計画】

- ・環境の見直しー残食をなくし、水光熱費の無駄遣いをやめて環境に優しい事業所を目指す。
- ・定期的に利用者とともに環境整備をする。
- ・「運動/レク」「食事/環境」「健康/防災」の3つの委員会を組織して毎月の活動を行い職員会で報告する。

C. 事業所と地域のかかわり

No.	項目	はい	いいえ	わからない
0	前回の改善計画について取組んでいましたか？	5		1
1	職員はあいさつできていますか？	5		1
2	事業所は、地域の方に知られていますか？	3		3
3	何か困りごとや相談ごとがあった場合に、事業所は相談しやすい場所になっていますか？	5		1
4	事業所のスタッフは、地域の行事やイベントに参加していますか？	3	1	2

・地域行事やイベントへの参加は、コロナ禍では難しいと思うが、今後は期待したい。

【前回の改善計画】

本人自身を「社会資源」と捉え、積極的に地域に関わっていくと同時に、本人の関係者・関係機関・馴染みの場所を「社会資源」として活用する。家族や知人など、できるだけ多くの人に事業所に関わってもらい、事業所のことを知ってもらう。多種多様な形態を試み、ケアが事業所内で完結しないようにする。

【「事業所と地域のかかわり」をテーマにした自由意見】

- ・コロナの影響で地域とのかかわりが希薄にならないように、事業所からの情報発信は継続してもらい、今後とも地域との良好な関係性を継続してもらいたい。
- ・コロナの影響で地域とのかかわりが希薄にならないように、事業所からの情報発信は継続してもらい、今後とも地域との良好な関係性を継続してもらいたい。

【改善計画】

- ・中学生の職場体験学習に協力する。
- ・近所のゴミステーションの掃除を行い、地域に貢献する。
- ・地域向けの展覧会コンサート、バザーの実施
- ・利用者自身による生産活動、行事への参加、講演などを企画する
- ・他事業所との交流を図る
- ・できるだけ多くの人に関わってもらう、多くの人を巻き込み包括的なケアを行う。

D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み

No.	項目	はい	いいえ	わからない
0	前回の改善計画について取組んでいましたか？	5		1
1	利用者を事業所の中だけに閉じ込めていませんか？	5		1
2	利用者本人が住んでいる地域の方を交えた会議が行われていますか？	2		4
3	事業所の利用者は、地域の行事やイベントに参加していますか？	2		4
4	利用者以外のご近所の心配な方に、事業所はかかわっていますか？	4		2

【上記5つのチェック項目に関する意見】

【前回の改善計画】

外出・外食の機会を作る。気候の良い時期の天気の良い日は毎日できるだけ戸外に出て新鮮な空気を吸う。「外に行きたい」という気持ちを大切に、送迎ドライブや散歩を日常的に行う。

【「地域に出向いて本人の暮らしを支えている」をテーマにした自由意見】

- ・コロナ禍ではあるが、利用者と地域とのつながりが継続できるよう、積極的に必要な情報の提供や取得といった取組みを行ってほしい。
- ・家にいると、本人は外で出たがらないため、家族が連れ出しての外出になるが、難しい事が多い。対応に慣れたスタッフが外へ連れ出してくれるのは本当にありがたい。外出を通じて社会の中の色々な場所に居場所がある、というのはとても良い事だと思う。

【改善計画】

- ・引き続き外に出ることを日課にし、より多くの外出機会を作る。
- ・毎月の行事を恒例化し、職員全員が取り組めるようにする。
- ・馴染みの場所や人の元を訪問する。故郷訪問、旅行などの支援を行う。

E. 運営推進会議を活かした取組み

No.	項目	はい	いいえ	わからない
0	前回の改善計画について取組んでいましたか？	2		4
1	運営推進会議では、事業所の取組みが解かりやすく説明されていますか？	2		4
2	運営推進会議では、地域の心配の方等の事例検討が行われていますか？	1		5
3	運営推進会議では、地域での取組みを一緒に取組もうとしていますか？	1		5
4	運営推進会議で出た意見を、改善につなげていますか？	2		4

【上記5つのチェック項目に関する意見】

【前回の改善計画】

運営推進会議が開けるようになった際には、利用者による発表・スライドの鑑賞・軽食の提供など、地域の方を招いて楽しい会を計画・開催する。

【「運営推進会議を活かした取組み」をテーマにした自由意見】

- ・会議の内容や会議で使用したスライドなどがあれば、家族も知りたい。
- ・運営推進会議を通して様々な意見を集約し、課題分析の上、改善につながる取り組みを行っていると思う。引き続き改善計画に取り組んでほしい。

【改善計画】

- ・運営推進会議に各委員会に担当してもらい①軽食（喫茶）5月②音楽祭（7月）③バザー（9月）④防災訓練（11月）⑤スライドショー（1月）を行う。

F. 事業所の防災・災害対策

No.	項目	はい	いいえ	わからない
0	前回の改善計画について取組んでいましたか？	3		3
1	事業所の防災計画（火災・風水害・地震等）を知っていますか？	2	2	2
2	事業所は、地域の防災訓練に参加・参画していますか？	2		4
3	事業所の防災訓練に参加したことがありますか？		6	
4	災害時、事業所は頼りになりそうですか？	5		1

【上記5つのチェック項目に関する意見】

【前回の改善計画】

運営推進会議等の機会に、防災士や防災・業務継続計画 BCP 担当の職員を交えて話をしてもらおう。防災クイズ・備蓄品の試食・避難後の外気浴など、楽しみながら防災意識を高められる行事を工夫する。

【「事業所の防災・災害対策」をテーマにした自由意見】

- ・防災については、事業所全体で同様の知識習得を目指してもらい、訓練や研修に欠席した場合は資料を供覧するなどして防災に努めてほしい。
- ・コロナ感染者が出ると、事業所閉鎖の事態も想定される中、帰省に際しての条件等について明確な回答を得て、ある意味安心して帰省することができた。

【改善計画】

11月の運営推進会議で、防災士や防災・業務継続計画 BCP 担当の職員を交え、防災クイズ、備蓄品の試食などを企画、実施する。

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人ともの家	代表者	永和志野	法人・事業所の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の「自己実現」を目標に、その人らしい生き方を全面的に支援します。 ・誰にとっても居心地よい空間であるように努め、職員は優しさと受容を基本的姿勢として常に最善のケアを目指しています。 ・地域に開いた事業所であり、外出や交流を日常的に図っています。
事業所名	小規模多機能ともの家吾も紅	責任者	永和里佳子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	1人	1人	3人	人	人	1人	人	7人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<p>次年度の事業所重点目標を次のように設定する。①本人を主体にした全力ケア…すべてを受け入れ、その人の生き方に向き合うことで、最期までより良く生きる。②根拠に基づき、自ら考え動ける職員の育成…部門ごとに委員会を形成、研究成果を発表してもらう。毎月の会議・研修で協議し、ケアの統一を図る③地域を巻き込んだ楽しみ作り…本人・関係者・地域の人・職員など多くの人と絆を深める。</p>	<p>①お誕生会には好物を作って歌・色紙贈呈・乾杯・演奏など心のこもったお祝いを開いて「それぞれの人が主役」となる場を工夫している。今年度はターミナルケアに取り組み、全員が心を込めて利用者の最期を見送ることができた。②例年になく職員の入替わりが激しい年であり、固定メンバーでの委員会活動が難しかった。研究発表できなかったが、各委員で毎月活動できていた。会議以外にも都度話し合っケアの統一もできた。③コロナ禍ではあったが、最大限他事業所や地域の人などと交流を図れた。ブラジルの医療従事者と国籍を超えて楽しく交流ができ、午後からの意見交換会で自分たちの取り組みを外部に発表する良い機会となり職員の視野も広がったのではないかと思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組み姿勢はいいと思う。 ・「できている点」と「できていない点」が整理されていて、課題分析がよくできていると感じた。 ・コロナ対応等により人員不足が生じたり、ハラスメントにより退職した職員がいるとのことだったので、改善計画に沿って少しでもゆとりある運営ができるよう努めてもらいたい。 ・事業所自己評価については、今後もスタッフに対して実施の目的や趣旨等、意識付をしたうえで行うこと。 	<p>次年度の重点目標を以下のように設定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 強い高齢者を目指す…「弱者」とみられがちな高齢者だが、生活の主体者としての権利を尊重し、思いのままに生きられるよう支援する。足腰を鍛え、十分な水分・栄養を摂り強い身体を作る。医療依存を減らして健康寿命を延ばす。 ② 実力ある職員を目指す…毎月の会議で実践結果を報告、評価する。研修を勤務として組み込む。認知症ケアの徹底により専門性豊かな職員を育成する。 ③ 誰もが幸せな高齢者社会の実現…本人、職員、関係者、地域の全てに関わり、包括的なケアを計画・実践する。
B. 事業所のしつらえ・環境	<p>常にだれにとっても居心地良い空間であることを目指し、優しさと受容を基本的姿勢として、利用者本人が自己実現できるように努める。「水分・排泄」「運動・レク」「栄養・環境」「救命・防災」の4つの委員会を組</p>	<p>今年度も、毎月各職員に活躍の場を作った。例えば6月は「みんなDE筋肉体操」運動班が筋肉強化訓練を行ったり、食事班はたこ焼きパーティーをしたり楽しめた。7月は、利用者から希望のあった古代ハスの見物・七夕・夏季オリンピック・スイカ割りとしそうめん・かき氷</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後とも、清潔感のある施設環境の整備に努めてもらいたい。 ・利用者の行動制限をせず、開放的にすればその分職員の負担が増えるようにも思えるが、それでやれるのであれば、理想 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境の見直しー残食をなくし、水光熱費の無駄遣いをやめて環境に優しい事業所を目指す。 ・定期的に利用者とともに環境整備をする。 ・「運動/レク」「食事/環境」「健康/防災」の3つの委員会を組織して毎

	織し、3 か月毎に研究成果を発表・ケアの改善を図る。	などそれぞれ職員が工夫を凝らして楽しんでいる。夏祭りでは各職員が「かき氷・花火・たこやき・綿あめ・スイカ、飲み物」など係を決めて準備をし、カレーライスの差し入れもありにぎやかな屋台を楽しんだ。	的と考える。 ・声掛けするとすぐに職員が出て来てくれて、丁寧に対応してくれるので事業所に入りやすい。	月の活動を行い職員会で報告する。
C. 事業所と地域とのかかわり	本人自身を「社会資源」と捉え、積極的に地域に関わっていくと同時に、本人の関係者・関係機関・馴染みの場所を「社会資源」として活用する。家族や知人など、できるだけ多くの人に事業所に関わってもらい、事業所のことを知ってもらい、多種多様な形態を試み、ケアが事業所内で完結しないようにする。	毎日の家事にできるだけ多くの利用者に参加してもらい、字の書ける人には献立を書いてもらう、畑仕事が好きな人には草引きや根切りなど本人の能力を最大限に活用している。自分より年上の人のお世話をしたり、ネコの世話をしたりしている。終戦記念日には戦争体験を語ってもらった。敬老の日に利用者さん全員から一言スピーチをいただき、時代劇もたくさんの利用者さんに出演してもらった。ブラジル交流会や展覧会コンサートを通じて、多くの人に事業所のことを知ってもらった。 また近所の中学生職場体験学習に協力を申し出ていたが、コロナの感染状況悪化により中止となってしまい残念だった。	・コロナの影響で地域とのかかわりが希薄にならないように、事業所からの情報発信は継続してもらい、今後とも地域との良好な関係性を継続してもらいたい。 ・地域行事やイベントへの参加は、コロナ禍では難しいと思うが、今後は期待したい。	・中学生の職場体験学習に協力する。 ・近所のゴミステーションの掃除を行い、地域に貢献する。 ・地域向けの展覧会コンサート、バザーの実施 ・利用者自身による生産活動、行事への参加、講演などを企画する ・他事業所との交流を図る ・できるだけ多くの人に関わってもらい、多くの人を巻き込み包括的なケアを行う
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	外出・外食の機会を作る。気候の良い時期の天気の良い日は毎日できるだけ戸外に出て新鮮な空気を吸う。「外に行きたい」という気持ちを大切に、送迎ドライブや散歩を日常的に行う。	天気の良い日は毎日外に出て散歩や外気浴を行った。外で芋炊きや焼き芋、バーベキューをした。近くの公園で花見や運動会を行い、栗拾いをした。郷土の画家の寄贈作品で地域向けの展覧会を開催した。利用者は絵画や演奏を楽しみ、喫茶で地域の方と交流を楽しんでいた。久万ふるさと村で紅葉を見物し、地元の食材を使った料亭での懐石料理を食べ道の駅で買い物をした。 JICA のブラジル留学生との交流会では皆で手打ちうどんやちらし寿司、おはぎを作ったり、お手玉やけん玉で遊んだりした。また「日本の歌」を披露し、ともの家楽団による即興演奏もあり、最後は	・コロナ禍ではあるが、利用者と地域とのつながりが継続できるよう、積極的に必要な情報の提供や取得といった取り組みを行ってもらいたい。 ・外出・外食の機会を作る。気候の良い時期の天気の良い日は毎日できるだけ戸外に出て新鮮な空気を吸う。「外に行きたい」という気持ちを大切に、送迎ドライブや散歩を日常的に行う。	・引き続き外に出ることを日課にし、より多くの外出機会を作る。 ・毎月の行事を恒例化し、職員全員が取り組めるようにする。 ・馴染みの場所や人の元を訪問する。故郷訪問、旅行などの支援を行う。

		利用者さんが作ったお手玉とランチョンマットをプレゼントした。		
E. 運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議が開けるようになった際には、利用者による発表・スライドの鑑賞・軽食の提供など、地域の方を招いて楽しい会を計画・開催する。	今年度はコロナの感染状況が悪化し、運営推進会議が全て書面開催となってしまったため、計画していたことが実行できず残念だった。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議を通して様々な意見を集約し、課題分析の上、改善につながる取り組みを行っていると思う。引き続き改善計画に取り組んでほしい。 ・会議の内容や会議で使用したスライドなどがあれば、家族も知りたい。 	・運営推進会議に各委員会に担当してもらい①軽食（喫茶）5月②音楽祭（7月）③バザー（9月）④防災訓練（11月）⑤スライドショー（1月）を行う
F. 事業所の防災・災害対策	運営推進会議等の機会に、防災士や防災・業務継続計画 BCP 担当の職員を交えて話をしてもらおう。防災クイズ・備蓄品の試食・避難後の外気浴など、楽しみながら防災意識を高められる行事を工夫する。	運営推進会議での取り組みはできなかった。事業所内での防災訓練で、避難した後に外で飲み物を飲んだり、外気浴しながら感想を話し合ったりした。	<ul style="list-style-type: none"> ・防災については、事業所全体で同様の知識習得を目指してもらい、訓練や研修に欠席した場合は資料を供覧するなどして防災に努めてほしい。 ・コロナ感染者が出ると、事業所閉鎖の事態も想定される中、帰省に際しての条件等について明確な回答を得て、ある意味安心して帰省することができた。 	11月の運営推進会議で、防災士や防災・業務継続計画 BCP 担当の職員を交え、防災クイズ、備蓄品の試食などを企画、実施する。